

令和年 6 度第 3 回東海村高齢者福祉計画推進委員会 議事録

日時		令和 7 年 1 月 22 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分
場所		中丸コミュニティセンター
出席者	委員	宮崎委員長，土屋委員，安田委員，丸山委員，三田委員，今橋委員，山崎（香）委員，山崎（松）委員，砂押委員，阿久津委員，内藤委員，菊本委員， ※半数以上出席のため本会は成立（7 名欠席）
	事務局	（地域福祉課）大道課長，木梨課長補佐，ヴァキリ係長，増子主事 （保険課）山口課長，瀬谷課長補佐，北崎係長，上田係長，野内主事 （総合相談支援課）前田課長，川上課長補佐 （健康増進課）鳥居係長
報告		（1）地域密着型サービス運営部会の実施状況 資料 1 に基づき前回部会の協議内容を共有。地域密着型サービス事業者の公募について募集要領を決定し，募集を開始しているところ。令和 7 年 3 月末までに事業者が決定する予定。 （2）介護医療地域情報検索システム（まるっとナビ） 資料 2 に基づきシステムについて説明。これまでのシステムでは，医療機関と介護サービス事業所の情報を掲載していたが，地域資源（交流の場，住民活動，生活支援など）も検索できるようになった。 （3）第 2 回委員会グループワークまとめ テーマ：外出支援タクシー利用料金助成事業の利用者増に向けた取組のアイデア グループワークを行った結果，大きく分けて，利用対象者の範囲を拡大，より利用に繋がる周知，助成内容の拡充，制度的な拡充の 4 つのアイデアが出た。
議題		第 3 回高齢者福祉計画推進委員会グループワーク テーマ：高齢者の移動支援 目 的：村内の移動資源（公共機関）の現状からみる，高齢者にとってより利便性の高まる取組（村内の移動手段は資料 5 の通り） 今後は，枠を超えた取組が重要と考える（例：単独の事業のみならず，他課事業や関係機関等との組み合わせも検討） 村内の移動手段について，欠点を補える方法や改善策，併用方法等を A，B，C の 3 グループ（8 名程度）に分かれ，意見を出し合い，グループごとに発表。 （グループ分けや進め方については資料 4 のとおり） 各グループで出た意見については，添付の「記録係入力シート」参照 【委員長講評】

その他	今回のグループワークを行うにあたり、村内に様々な移動手段があることが分かった。それぞれの移動手段に問題点があることも再確認できた。グループワークでは、対象者の拡大や料金の見直し、村民のニーズの把握、既にあるものを周知することが必要だという意見が出た。今後移動に不便を感じている高齢者のために、制度の見直しや情報の周知を図っていただければと思う。 ○次回委員会について 第4回高齢者福祉計画推進委員会は3月17日（月）14時から16時に役場101・102会議室にて開催予定。詳細は追って案内する。 次回の委員会では、令和6年度の事業評価を実施予定。各事業について、事業の取組実績を踏まえて、取組内容と計画値に対して評価シートの記載していただき、2月10日（月）までに提出をお願いする。 ○全体を通しての質問や意見は無し
------------	---

以上

第3回高齢者福祉計画推進委員会グループワーク テーマ「高齢者の移動支援」

既存の移動公共機関（表1～7）の 拡充関係	既存の移動公共機関（表1～7）の 連携など	新たな移動支援のアイデア	その他
○外出支援タクシー。半額助成よりもさらに助成を。50%助成から70～80%へ。 ○外出支援タクシー利用者の拡大。 要支援・要介護者から、65歳以上の高齢者へ拡大。 ○外出支援タクシー、村内の料金、できるだけデマンドタクシーに合わせる。 ○外出支援タクシー半径5キロ以内500円。10キロ以内1,000円など。定額。 ○外出支援タクシー 自宅からという縛りをなくす。 ○「絆」ワゴンについて、絆まで行かなくても途中下車を可能にする。	○デマンドタクシーと外出支援タクシー デマンドタクシーがやってない7:00～8:00の間は、外出支援タクシーを利用など。 ○「絆」ワゴンとデマンドタクシー 行きは、「絆」ワゴン、帰りはデマンドタクシーなど。 ○村内はデマンドタクシー。村外は外出支援タクシーなど。使い分け。		○「絆」送迎ワゴンの利用者あまりいない。 絆以外の利用ができない。運転手がいらない。 ○外出支援タクシーについて、距離が長くなると補助額が増える。 ○外出支援タクシー、コンビニや銀行にちょっと寄って帰るは助成券1枚で可としている。 ○深夜に受診した場合、タクシー会社の営業時間が過ぎてしまうと帰りの足がなくなってしまう。 ○路線バスの本数が増えれば。ただし、バス停まで行くのが大変。 ○家族に送迎してもらおう方が多いが、社会資源の利用を促していく。 ○支援の枠を広げても実際の利用がないということがある。 ・デマンドタクシー登録はしているが利用はしていないなど。

第3回高齢者福祉計画推進委員会グループワーク テーマ「高齢者の移動支援」

既存の移動公共機関（表1～7）の 拡充関係	既存の移動公共機関（表1～7）の 連携など	新たな移動支援の アイデア	その他
○1.デマンドタクシー PRが少ない。あいのりではなく1人で乗りたい方もいる。1人の場合400円にする等、値段を上げて1人で乗れるようにすると良いのではないかな。 要介護認定者や障がい者まで値段を安くしなくても良い。 ○2.外出支援タクシー 対象者は要介護認定者となっているが、高齢者が増えていく。免許返納の推進も考え、75歳や80歳以上を対象者に入れても良い。 ○普遍的にいくのか選別的に給付していくのか。日本の歴史的な見解は、必要な人に必要な分のサービス提供をするという考え。最適??では、必要な人って誰??はたして必要な人を設定できるのか。 普遍主義的なものを作っているのが良い。狙いは複数必要ない。1つのサービスで多様化できるようにした方が良い。 ○移動手段は元気な方向けに、機能が落ちないように活動できるように働きかけていきたい。	○3.4コラボして、過去に走行していたコミュニティバスを運営してはどうか。		○東海村は住みやすいと言われているが、地域差がある。6号や245号の国道で分断された地域は、スーパー等買い物に行くのも不便な地域もある。 ○カスミの移動スーパーが1/21から地域を周るようになった。1週間に1回来てくれるようになったが、1週間分買えるわけではない。移動スーパーまで出てこられる人は他にも外出出来ている。移動スーパーまで出てこれない人もいる。家の中から出てこれない人に対して出られる交通手段を作って欲しい。 ○7.路線バスであるが、過去にあった大型バスではなく、小型にして、駐車場所を多くして、自宅に近く乗車できる等、使い勝手を良くして乗車人数を増やしてはどうか。 ○免許返納した後の移動手段を考えた時に、何を選択する？ ・最初に料金を考えてしまう。安価な路線バス。 ・暑さ寒さ、停留所までの移動を考えるとバス利用の考えはない。やはり車を乗り続けたい。 ○東海村民はバス停まで行くというよりは、ドアツードアの考えが強い。 ○財源も考えた上で交通手段を考えなければならない。 自家用車は自助。 公共バスは利用率を高めなければならない。イベントへの集客にあいのり等の送迎を付ける。 ○1人では外出できない人は介添え者が必要になってくる。

第3回高齢者福祉計画推進委員会グループワーク テーマ「高齢者の移動支援」

既存の移動公共機関（表1～7）の 拡充関係	既存の移動公共機関（表1～7）の 連携など	新たな移動支援のアイデア	その他
○あいのりくんの現状について確認 ・利活用の方法 個人利用が多い ・システムの経路編成について ・慣れてくると300円でも高いと感じることも ○「絆」送迎ワゴン バス停がないので、利用し辛い 非常に良いのに知られていない 乗降場所が分かり辛い 絆の事業を利活用している人には便利	○タクシー券を持っても、あいのりくんの利用を優先的にし、予約できない場合にタクシー券、という利用者も多い。 ○使い方の事例を周知するののも一つの手ではないか いくつかある選択肢の中で自分に合った利用方法が選択できるように ○一緒にの時間に同じ目的地に行くという場合、複数名ならタクシー利用で割り勘の方が安くなる	○今あるものは活かして、不足している部分を何で補うか考える方がよりよい	○あいのりくんは非常に良いサービスということを改めて感じた。 ドアツードアはやはり便利 利便性は高いが、台数を無限に増やせるわけではないため、あいのりくんに集中せず、これだけあるサービスに分散できるようにしていかないと ○行政には馴染まないようなサービスに取り組んでいるのでは 行政がここまでチャレンジしている、これ以上のアイデア出しは難しいのではないかな ・送迎を家族に依頼した場合、仕事を半日休んで対応してくれる 対価で考えるとこれら移動支援を利用した方が安く済む